

ぴあ

2021年度のご報告 2021.4.1-2022.3.31



情報誌「ぴあ」
創刊(1972年)から、今年で



創業50周年

これまでのご支援に心より感謝申し上げます

第3四半期単独 2年ぶりの
完全黒字化を達成
通期での黒字化は未達も
下期は黒字に回復



書籍『ジェイソン流
お金の増やし方』が

累計

47
万部の
大ヒット

三菱地所との業務・資本提携は次のステップへ
合併会社 **MECぴあクリエイティブ(株)** 設立

ぴあアリーナMM

の稼働率(予約)も好調
コンサートやフェス、
スポーツも満員で復活

東京2020オリンピック・
パラリンピックの
チケット業務を無事完遂

持続可能な社会に向けて
ぴあ総研がシンポジウムを初開催
集客エンタメ産業の「社会的価値」に注目

エンタテインメントを通じたSDGsの実施へ
サステナビリティ委員会を新設

“変身”に向けた新事業をスタート

- バーチャルライブプラットフォーム
「**NeoMe**」をリリース
- XRコンテンツ制作へ本格参入
専用スタジオを共同運営
- デジタルマーケティング事業を再編
ぴあネクストスコープ(株)
を新設分割



代表取締役社長
矢内 広

ぴあを応援してくださる皆様へ 創業50周年の感謝を込めて。 “変身”するぴあにご期待ください



集客エンタテインメント業界にも見えた 復調の兆し

皆様には平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。お陰さまで、当社は今年7月、情報誌『ぴあ』の創刊から50周年を迎えます。思えば1972年、安アパートの一室で僅か26ページの小冊子を発行して以来、皆様をはじめ、多くの方々のお力添えと、長きにわたるご支援がなければ、今のぴあもなかったと思います。まずはこの場をお借りしまして、心からの感謝を申し上げます。

この節目の年を前にしたコロナ禍により、2020年度に続き2021年度も、集客エンタメ産業は壊滅的なダメージを受けましたが、そのような状況下において、当社グループ通期連結業績は、第3四半期には旧基準売上390億円規模まで回復し、2年ぶりの完全黒字化を達成しました。残念ながら、年明け以降のオミクロン株の急速な感染拡大による、まん延防止等重点措置の再発令の影響で、通期での黒字化には至りませんでした。第4四半期単独でも営業損益で黒字を達成し、業績が回復基調にあることを確認しております。ただ誠に遺憾ながら、今期も無配とさせていただきます。キャッシュフローは下期以降急速に改善し、借入金の返済も着実に進んでおりますので、ご安心いただきたいと思います。

東京五輪のプロジェクトを完遂、 異業種との新たな連携も

そんな中、1年の延期を経て開催された東京オリンピック・パラリンピックでは、あいにく無観客とはなりましたが、国内及び世界

各国へ合計865万枚の観戦チケットを販売するとともに、当社従業員が約250人体制で、期間中の全会場におけるチケットインゲージング業務にあたり、一連の受託業務を無事完遂することができました。ここで得た貴重な知見とノウハウは、今後の国際的なイベントへの参画に活かし、当社事業のグローバル化も進めてまいり所存です。

また、昨年5月に業務・資本提携を締結した三菱地所株式会社とは、一層その協業を推進するべく、今年5月に合弁会社「MECぴあクリエイティブ株式会社」を設立しました。集客エンタテインメントが人々の生活を豊かにする重要な要素であり、次世代の街づくりに様々な波及効果をもたらすことを見据え、両社がタッグを組んだからこそ実現できる独創的な事業を展開していきたいと考えております。

“変身”に向けた新事業が順次本格スタート

当社では、コロナ禍をむしろ“変身”のチャンスと捉え、新たなサービスの開発や、事業のDX化に取り組んできました。その一つとして、XRコンテンツ専門の収録スタジオの運営に参画し、バーチャル映像の制作を本格的にスタートしました。第1弾として、海外でも大人気のアニメ「進撃の巨人」タイアップ曲のミュージックビデオを公開し、そのクオリティの高さが、海外を中心に大きな話題となっております。今後は、バーチャルライブを海外に配信するなど、事業領域をさらに拡大していきたい考えです。

同じ3月には、デジタルメディア・データマーケティング関連の事業を再編し、「ぴあネクストスコープ株式会社」として分社化しました。チケットぴあ等の事業を通じて得たデータを活用した「PIA DMP」の広告サービスが大変好調で、新会社の主軸として

本事業のさらなる成長戦略を描いてまいります。また5月には、メタバース内でバーチャルライブを楽しめるスマートフォンアプリ「NeoMe(ネオミー)」もリリースしました。仮想空間に若手アーティストたちの活動の場を提供し、そのライブを楽しむユーザーと直接交流できるコミュニティを提供します。加えて、アーティストにはリアルでのライブやイベント開催のチャンスも作りながら、ぴあならではの事業として育ててまいります。

50年間、変わらぬ理念のもとに、 100年企業を目指して

コロナ禍の収束とともに、今年4月以降は売上もコロナ以前の8~9割レベルまで回復しつつあります。プロスポーツや音楽ライブ等、多くのイベントが収容率100%で開催され、海外の著名アーティストの来日公演や夏フェス等の計画も徐々に具体化しています。こうした状況をさらに後押しすべく、去る5月には創立20周年を迎えたびあ総研の主催で、集客エンタメ産業の社会的価値をテーマにしたシンポジウムを初開催しました。様々な業界の聴衆を前に、各界のトップリーダーの方々からは、コロナ禍を経た今こそ、持続可能で豊かな社会、魅力ある街・地域づくりににおける集客

エンタメ産業の重要性がさらに高まるだろう、との見通しが多角的に語られました。依然として、感染の再拡大への不安が続く中ではありますが、当社の「ぴあアリーナMM」の稼働率や予約状況も堅調で、取り巻く環境は着実に回復基調に向かっています。当社でも、全社一丸となって一刻も早いV字回復を目指し、“変身”への道のりを着実に進んでまいります。

“はじめに遊びがあった”という私たちのキャッチコピーは、「遊び」を原点とした、エンタテインメントを望む純粋な欲求こそが、全ての創造力の原点であり、ビジネスやサービスを生み出すための最も大切な要素だ、という創刊当時の思いに立ち返って決めた、ぴあのアイデンティティです。と同時に、エンタテインメントを提供する側と、それを観る側・楽しむ側の双方にとって、より快適で便利なライフラインを作り、“ひとりひとりが生き生きと”好きなエンタテインメントを自由楽しめる社会を実現することが、今も変わらぬ私たちの目標です。そのためにも、これまでの50年に培ったノウハウや技術、そしてそこに育まれた温かいコミュニティを最大限に活かし、21世紀の豊かな社会作り貢献してまいりたいと考えておりますので、皆様にはどうか引き続き、温かいご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

アバターで新感覚ライブが楽しめる!

「NeoMe」は、ユーザーがアバターとなってバーチャル空間に入り、XR技術を使ってパフォーマンスの世界観を演出するバーチャルライブを中心に、



バーチャルライブプラットフォーム「NeoMe」がサービス開始

ユーザー同士のリアルタイムな交流やアバターのコーディネートを楽しむことができるスマートフォンアプリです。

次世代を担う若手パフォーマンス者に対してはメタバース内にバーチャルな活動の場を、ユーザーには同じ趣味をもつ者同士の交流の場を提供し、

両者の新たなコミュニティづくりを支援します。当社が培ってきたエンタメ領域のノウハウで、パフォーマンスがリアルとバーチャルの垣根を越えて活動できるよう、バーチャルならではの様々なライブやイベントを展開予定です。ぜひ、この新しいエンタメをご体験ください!



ダウンロードはこちら(無料)

2021年度の主な活動

■チケット流通事業 ■ライブコンテンツ・興行企画制作事業 ■メディア&プロモーション事業(出版・アプリ) ■会場事業 ■社会貢献・CSR活動 ■IR活動

4月: 「ぴあスポーツビジネスプログラム」開講、ASTRO JAPAN ONLINE FANMEETING -All Yours- 開催

5月: 三菱地所との業務・資本提携について基本合意、新型コロナウイルスワクチン接種予約受付・抽選サービスを開発・提供

6月: チケットぴあ店舗(「ぴあステーション」「チケットぴあスポット」)の運営を終了、第48回定時株主総会を開催。オンライン配信も実施

7月: 東京2020オリンピック・パラリンピック開催。入場管理業務を実施(7~9月)、第42回ぴあフィルムフェスティバル「グランプリ作品「へんしんっ!」(石田智哉監督)が劇場公開

8月: ぴあ総研が調査・編集する「2021ライブ・エンタテインメント白書」(発行:ライブ・エンタテインメント調査委員会)が完成、第43回ぴあフィルムフェスティバルを開催。DOKUSO映画館に加え、U-NEXTでも配信開始

9月: 「第2回大島渚賞 記念イベント」の新聞広告が「朝日広告賞 広告主参加の部 準流通・エンタテインメント部門賞」を受賞

10月: 「PIA MUSIC COMPLEX 2021 -ぴあフェス」(神奈川)を主催、MTV LIVE MATCH(神奈川)を主催

11月: サステナビリティ委員会を発足、ぴあランニング教室「高橋尚子さんと走ろう!」(東京)を開催、YOKOHAMA ミッドナイトHAR★BAR 2021 CHRISTMAS(神奈川)を企画総合プロデュース

12月: 「スポーツエコシステム推進協議会」に理事の1社として参画、第43回ぴあフィルムフェスティバル(PFF)を京都で開催

1月: ライセンサーとして参画する「進撃の巨人展 FINAL」をシンガポールで開催、オダイバ!! 超次元音楽祭 -ヨコハマからハッピーバレンタインフェス2022- (神奈川)を主催

2月: 「第3回大島渚賞」発表、パンのフェス 2022 春 in 横浜赤レンガを開催、主催参画する「NAKED FLOWERS」の常設施設が銀座にオープン

3月: ぴあMOOK「森のカフェと緑のレストラン」3刷実施、フリーペーパー「MUSIC CITY YOKOHAMA 2022 Restart」を発行

「東京2020オリンピック・パラリンピック」におけるチケティングシステム&サービスオペレーション受託業務(TSP)を完遂

オリンピックで約675万枚、パラリンピックで約190万枚の観戦チケットを販売。1年の延期を経て無観客開催となりましたが、期間中の全会場におけるチケティング、ゲーティング業務も一括して受託しました。ぴあ従業員を中心に約250人体制のスクランブル対応により、一連の受託業務を完了。今後も、大規模な国際イベントの開催が予定されていますが、当社ならではのノウハウを活かして、その成功の一助となれるよう取り組んでまいります。



各スポーツ競技団体とのパートナーシップを拡充

これまでJリーグや日本ラグビーフットボール協会など様々なスポーツリーグや、大会、チームのチケティング業務で培った経験を最大限に活かし、観客満足度の向上や新しいファンの獲得など、「ファンエンゲージメント」領域に踏み込んで、取引先の収益最大化に努めてまいります。

【2021年度の新規パートナー先】

ジャパンラグビー リーグワン
日本女子プロサッカーリーグ(WE リーグ)
日本女子ソフトボールリーグ機構 (JD.LEAGUE) など



三菱地所と業務・資本提携を締結。1年の協議を経て、合弁会社を設立

「集客エンタテインメントと街づくりの一体化を進める」ことを目的に、三菱地所と2021年5月に業務・資本提携を締結しました。さらなる協業を推進するべく、2020年に開業した「ぴあアリーナMM」をはじめ、各種協業の検討を重ね、2022年5月には合弁会社「MECぴあクリエイティブ株式会社」を設立しました。当社の得意とするエンタテインメント領域と、三菱地所の街づくりのノウハウを融合し、両社の既存領域にとらわれない、独創的な事業を創出してまいります。



【設立日】 2022年5月12日

【資本金】 5,000万円

【株主構成】 ぴあ株式会社49%、三菱地所株式会社51%

本年3月、ぴあネクストスコープ株式会社(PNS)を設立

国内最大級のライブエンタメユーザーのデータを活用できるデータマーケティングプラットフォーム「PIA DMP」の好調を受け、デジタルメディア・データマーケティング事業を分社化し、3月に「ぴあネクストスコープ株式会社」を設立しました。チケット販売、ソリューション、メディア展開など、ぴあの各種事業を通じて得られた膨大なデータを蓄積する「PIA DMP」を柱とし、これらのデータの分析によって得られる最新の知見と仮説をもとに広告サービス・ソリューションを提供。また、アプリ版、Web版の「ぴあ」および「ウレぴあ総研」を活用したイベントや商品の戦略的PRを強化し、データマーケティング事業のさらなる成長戦略を構築してまいります。



ぴあ主催イベント

コロナ禍でも様々な公演、イベントを主催し、多くのお客様にご来場いただきました。

【音楽】 PIA MUSIC COMPLEX
-ぴあフェス- @ぴあアリーナMM



【音楽】MTV LIVE MATCH / 【音楽】オダイバ!! 超次元音楽祭ヨコハマからハッピーバレンタインフェス2022 / 【ミュージカル】ストーリー・オブ・マイ・ライフ / 【ミュージカル】SINGIN' IN THE RAIN ~雨に唄えば~ / 【イベント】パンのフェス2022春 etc.

XRコンテンツ制作に参画

得意領域の異なる複数のクリエイティブ企業が共同経営する異例の形式で、XRコンテンツ専門の収録スタジオ「HANEDA xR STUDIO」を開設しました。同スタジオで撮影された、当社企画制作作品第1弾である、海外でも大人気のアニメ「進撃の巨人 The Final Season」(放送:NHK)のタイアップ曲「The Rumbling」(SiM)のMVは、公開約2ヶ月で約2,000万回も世界中で再生され、大反響となりました。

将来的には、年間30本程度のXRライブやミュージックビデオ作品の発表を予定しており、グローバル市場やキャリア等での展開を視野に、エンタテインメント領域におけるバリューチェーン創出に向け、既存事業との連携を図ってまいります。



ぴあの最新MOOK&書籍



ジェイソン流 お金の増やし方
47万部 (電子書籍含む) 将来の安心は今の行動で作る!
簡単! シンプル!
続いた人はみんな始めています!

ジェイソン流の軽快な語り口で自身の経験を踏まえた、すぐに取り入れたい投資術をわかりやすくレクチャー。昨年11月発売以降、全国の書店で売れ筋ランキング1位が続き、先日「オリコン上半期BOOKランキング 2022」で1位を受賞しました。



シナモロール
ぴあ
【2月発売】



イニエスタ・
ジャパン!
日本に学んだ人生で大切なこと
【2月発売】



東京の喫茶店
【2月発売】



日帰り+1泊
ドライブぴあ
関東版2022-2023
【3月発売】



Denny'sぴあ
【4月発売】



おとなが楽しむ
プラモデルの
世界
【4月発売】

～ 持続可能な社会に向けて～

集客エンタメ産業の復活に向けて

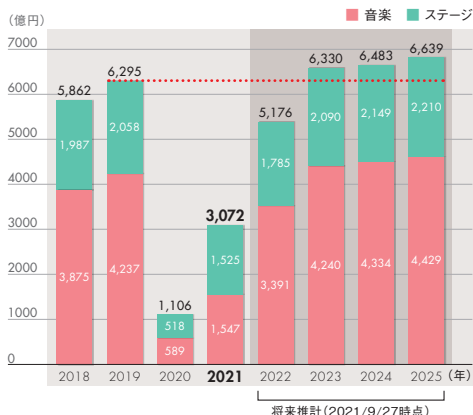
びあ総研では、コロナ禍により壊滅的なダメージを受けたライブ・エンタメ市場について、早ければ2023年にもコロナ前を上回る水準にまで復活すると予測をしています。直近の市場動向を鑑みても、ウィズコロナのもとで本格浮上に向かう軌道を着実にたどっているとしています。

また、去る5月19日には、コロナ禍を経て、集客エンタメの社会的価値はさらに高まるであろうという仮説のもと、20周年を迎えたびあ総研初のシンポジウムを開催しました。基調講演は大和総研理事長・中曾宏氏(写真)。パネルディスカッションには都倉俊一氏(文化庁長官)、川淵三郎氏

(日本トップリーグ連携機構 代表理事会長)、武藤敏郎氏(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会事務総長)、吉田淳一氏(三菱地所 執行役社長)、翁百合氏(日本総合研究所 理事長)が登場。集客エンタメ産業の豊かな将来性と経済性、そして持続可能な社会に向けた役割の大きさについて、熱く語られました。今後もびあ総研では、エンタメの未来に向けて、様々なオピニオンを発信してまいります。



[ライブ・エンタメ市場規模:将来予測]



今年度も、PFF(びあフィルムフェスティバル)から次世代を担う新しい才能が生まれています

当社がCSR活動として位置付ける(一社)PFF主催の「びあフィルムフェスティバル」は、「映画の新しい才能の発見と育成」を目的とした活動として1977年から開催されている映画祭です。メイン企画「PFFアワード」は、世界でも類を見ない公募による「自主映画」のコンペティションで、170人を超えるプロの映画監督を輩出しています。昨年は、489本の応募作の中から、沖縄県与那国島出身の東盛あいか監督の「ばちらぬん」がグランプリを受賞しました。また、PFFが製作から劇場公開までトータルにプロデュースする「PFFスカラシップ」では、第27回作品「裸足で鳴らしてみせろ」(工藤梨穂監督)が完成し、映画祭で披露されました。

世界へ羽ばたこうとする、若くて新しい才能に対して贈られる「大島渚賞」は、第3回の受賞者として、在日ベトナム人女性実習生たちを描く長編第二作「海辺の彼女たち」が昨年公開されて話題を集めた藤元明緒監督に決定しました。4月に審査員の黒沢清監督、大島渚監督のご子息である大島新監督も参加したトークショーとともに記念上映会と授賞式が行われました。

第3回大島渚賞を受賞した藤元明緒監督(中)



サステナビリティ委員会を新設しました

SDGsや地球温暖化対策の推進に向け、「企業行動憲章」を改訂し、「サステナビリティ委員会」を新設しました。脱炭素社会に向け当社が貢献できることの検討を始めています。集客エンタメの事業領域を活かし、サステナブルな社会の実現に向けて、当社事業を通じた課題解決を目指します。

11年にわたる「チームスマイル」の活動を終了

2011年の東日本大震災直後より、エンタテインメントを通じた「心」の復興支援活動として継続してきた「チームスマイル」は、震災から11年目を迎えた2022年12月末をもって、社団法人としての活動を終了することとなりました。「わたしの夢」応援プロジェクト」と題した、被災地の子どもたちの夢の実現の後押しを目的としたイベントは、計24回にわたり、様々な著名人や専門家の方々に被災地に招き、東北でのワークショップや講演会を開催し、多くの方に喜んでいただきました。

なお、豊洲・いわき・釜石・仙台の「PIT」は今後も存続し、当社も「仙台PIT」(2022年4月～)と「豊洲PIT」(2023年1月～)の運営を継承してまいります。



Vol.2 香川真司さん



Vol.4 布袋寅泰さん

ぴあの決算ハイライト

[単位:百万円]	2020年度	2021年度	2022年度(予想)
売上高	67,355	※121,865	※160,000
営業利益	△6,231	△833	700
経常利益	△6,008	△845	400
当期利益	△6,664	△1,122	300
1株当たりの配当金	0円	0円	-円

※旧会計基準の売上高。収益認識に関する会計基準等を適用した場合の2021年度の売上高は25,829百万円。2022年度の売上高は35,000百万円の予想

当社グループの連結業績は、秋以降、感染者数の減少に伴う経済活動の回復とともに市場も好況に転じ、第3四半期には当社も2年ぶりの完全黒字化を達成しました。しかし、年明け以降からのオミクロン株の急速な感染拡大による、まん延防止等重点措置の再発令の影響で、イベントの開催制限や外国人の入国規制が再び強化され、市場の回復も足踏みを余儀なくされました。その結果、第4四半期も営業損益、償却前営業損益は黒字を達成したものの、通期では経常損益ベースで約8億円の赤字となりました。なお、2022年度の連結業績は、左表に記載の通りを予想しており、2023年にはコロナ禍前の水準を上回るまでに回復するというびあ総研の市場予測を背景に、2023年度は、2018年度と同等の売上高約1,800億円(旧基準)、営業利益約14億円の水準を目指します。

当社財務情報はホームページでもご覧いただけます。 <https://corporate.pia.jp/ir/>

会社情報 (2022年3月31日現在)

会社概要

商号	ぴあ株式会社 (PIA Corporation)
本店所在地	東京都渋谷区東1-2-20 渋谷ファーストタワー
設立	1974年12月
資本金	5,942百万円
社員数(連結)	342名

事業内容
音楽・スポーツ・演劇・映画・各種イベント等のチケット販売、コンサートやイベントの企画・制作・運営、スポーツ団体・劇団・ホールなどへの各種ソリューションサービスの提供、ぴあアリーナMMなどホール・劇場の企画・運営、エンタテインメント・レジャー領域を中心としたネットメディアや出版物の企画・編集など、エンタテインメント全般に付随する各種事業

役員	代表取締役社長	矢内 廣
	取締役副社長	木本 敬巳
	専務取締役	吉澤 保幸
	常務取締役	村上 元春
	取締役	小林 寛
	取締役	東出 隆幸
	取締役	川端 俊宏
	取締役(社外)	宮本 暢子
	取締役(社外)	一條 和生
	取締役(社外)	宮地 信幸
	取締役(社外)	石田 宏樹
	取締役(社外)	村井 満
	常勤監査役(社外)	能勢 正幸
	監査役(社外)	松田 政行
監査役(社外)	新井 誠	
監査役(社外)	宮地 悟史	

(※役員構成は第49回定時株主総会決議後の6月18日時点の情報に掲載しています。)

チケットぴあ名古屋株式会社
チケットぴあ九州株式会社
ぴあ総合研究所株式会社
ぴあグローバルエンタテインメント株式会社
ぴあフィールドサービス株式会社
ぴあネクストスコープ株式会社
株式会社東京音協
MECぴあクリエイティブ株式会社(2022年5月12日設立)

主要グループ会社

株式の状況

発行済株式総数	15,346,513株
株主数	25,852名

主な株主

株主名	持株比率(%)
矢内 廣	19.88
株式会社セブン&アイ・ホールディングス	9.18
KDDI株式会社	9.12
凸版印刷株式会社	7.09
きらぼしキャピタル東京 Sparkle 投資事業有限責任組合	5.32
株式会社セブン&アイ・ネットメディア	4.59
株式会社セブン・イレブン・ジャパン	4.59
三菱地所株式会社	4.43
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4.32
矢内アセットマネジメント株式会社	1.31

株式メモ

上場取引所	東京証券取引所プライム市場
証券コード	4337
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
配当受領株主確定日	毎年3月31日(中間配当を実施するときの株主確定日は、9月30日です)
公告方法	電子公告(URL) https://corporate.pia.jp/ir/ (ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞にて行います)
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	TEL.0120-782-031
インターネットホームページ	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

株主優待のご案内

株主優待制度について

2022年3月31日現在の株主の皆様に対し、以下の通り株主優待を実施しています。

1. 優待品目

① オリジナル図書カード、オリジナルシネマギフトカードから、下記優待金額(年2,500~11,000円)の範囲内で自由に組み合わせて事前を選択していただくことができます。

② アプリ [有料コンテンツの利用]

年6,000円分

2022年3月31日時点で2期継続、100株以上を保有していただいている株主の皆様は、通常年間6,000円がかかる「ぴあ」(アプリ)の有料コンテンツを1年間無償でご利用いただけます。詳しくは、対象となる株主様に別途送付されるお知らせをご覧ください。

2. 優待区分

保有株数	保有期間	2期未満(1年未満)保有		2期以上(1年超)継続保有	
		優待	優待	アプリ	アプリ
1,000株以上		5,500円分	11,000円分	ぴあ	年6,000円分
100株以上		2,500円分	5,000円分	ぴあ	年6,000円分

情報や特典が拡充「ぴあ」アプリのご紹介

2011年に休刊したエンタテインメント情報誌「ぴあ」を継承し、エンタテインメントとの“偶然の出会いと発見”を提供するスマートフォンアプリ「ぴあ」は、サービス開始から3年半で約140万ダウンロードを数え、多くの皆さまにご愛用いただいております。

試写会や公演へのご招待、施設入場割引等の特典が大幅に拡充され、事前に「ごひいき登録(お気に入りアーティスト等の登録)」をすると、自分の欲しい情報がトップページに表示されるなど、パーソナライズ化が進みました。エンタテインメントが復活してきている中で、エンタメファンの方々にはいち早く最新情報をお届けするとともに、引き続き公演・イベント探しの参考となる企画やコンテンツの拡充を図って参ります。

